

血友病患者におけるA型およびB型肝炎

ウィルスマーカーについて

国立大阪病院 吉岡慶一郎
益沢 学
船橋 修之

目 的

血友病AおよびB患者のHA抗体、HBs抗原およびHBs抗体を測定し、第ⅧあるいはⅨ因子製剤の頻回投与による各ウィルスマーカーの動向を検討した。

方 法

国立大阪病院小児科を受診した血友病A33例、血友病B7例の計40例(4才~50才)を対象とした。HA抗体はダイナボット社のHAVABキットを用い、HBs抗原はRIAおよびR-PHA、HBs抗体はRIAおよびPHA法で測定した。

成 績

血友病患者のHA抗体保有率は39%で血友病以外の小児科受診患者の5.6%に比較して有意に高値を示した。とくに10才以上では、そのほぼ1/2の症例がHA抗体を保有していた。

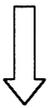
HBs抗体保有率は血友病患者で90.9%であり、対象群は5.6%にのみ陽性であった。一方HAs抗原は40例中3例(7.5%)に陽性であった。

第ⅧあるいはⅨ因子製剤中の抗体保有率について検討すると、HA抗体は濃縮Ⅷ因子剤は10ロット全部に高刀価に含有されていた。しかしSingle donerより製成されたcryoprecipitate剤は7ロットのうち5ロットに陽性(71.4%)で、2ロットは陰性であった。Ⅸ因子濃縮剤は2ロット検索し、いずれも陰性であった。HBs抗体についてみると、Ⅷ、Ⅸ因子濃縮剤はすべて陽性であるが、cryoprecipitate剤は6ロット中5(83.3%)が陽性であった。

肝機能異常は75%にみられ、そのうちGPT300単位以上を示したものは25%であった。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的

血友病 A および B 患者の HA 抗体, HBs 抗原および HBs 抗体を測定し, 第 あるいは 因子製剤の頻回投与による各ウイルスマーカーの動向を検討した。